

福祉施設向け 感染症対応訓練研修

令和6年8月2日（金）、21日（水）、27日（火）
静岡県健康福祉部医療局感染症対策課

いのち輝き、笑顔あふれる社会を。

静岡県健康福祉部

令和6年4月から義務化されたこと
(令和3年度 介護報酬改定より)

1. 業務継続に向けた取組の強化

感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続計画等の策定、研修の実施、**訓練（シミュレーション）の実施**等を義務付け

2. 感染症対策の強化

介護サービス事業者に、感染症の発生及びまん延等に関する取組の徹底を求める観点から、以下の取組を義務付け

●施設系サービス

委員会の開催、指針の整備、研修の実施、**訓練（シミュレーション）の実施**

●その他のサービス（訪問、通所、短期入所、多機能、福祉用具貸与、居宅介護支援、居住）

委員会の開催、指針の整備、研修の実施、**訓練（シミュレーション）の実施等**

いのち輝き、笑顔あふれる社会を。

静岡県健康福祉部

1

令和6年4月から義務化されたこと

(令和3年度 介護報酬改定より)

(1) 感染症に係る業務継続計画への記載事項

- ① 平時からの備え
(体制構築・整備、感染症防止に向けた取組の実施、備蓄品の確保等)
- ② 初動対応
- ③ 感染拡大防止体制の確立
(保健所との連携、濃厚接触者への対応、関係者との情報共有等)

(2) 研修の実施

- ① 内容…業務継続計画の具体的内容を職員間に共有するとともに、平常時の対応の必要性や、緊急時の対応にかかる理解の励行を行う
- ② 頻度…年1回以上(施設系・居住系サービスは年2回以上)

(3) 訓練(シミュレーション)の実施

- ① 内容…業務継続計画に基づく事業所内の役割分担の確認、感染症や災害が発生した場合に実践するケアの演習等
- ② 頻度…年1回以上(施設系・居住系サービスは年2回以上)

令和5年度

県感染症管理センターが作成したツール

I 施設内研修資料

- (1) 施設における感染対策について
- (2) 高リスク場面別研修資料及びチェックリスト
 - ① オムツ交換・排泄介助場面
 - ② 食事介助場面
 - ③ 口腔ケア場面

<個人学習用動画>

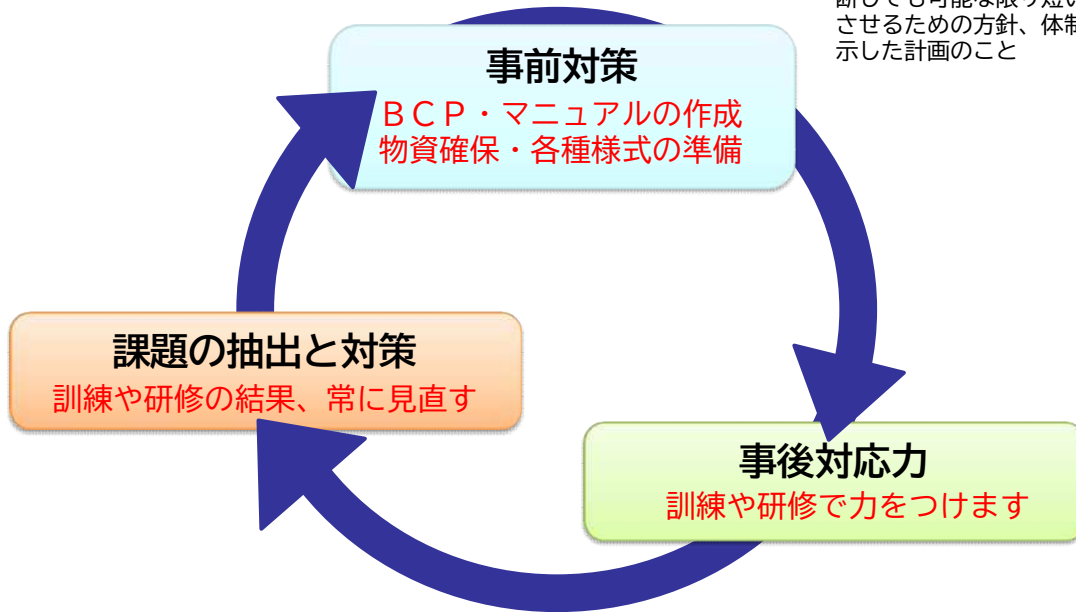
- ・個人防護具の着脱
- ・手指衛生
(手洗い・アルコール消毒)

II 福祉施設向け感染症対応訓練ツール

III 福祉施設向けアクションカード

BCPは作って終わりではありません

※BCP
 (Business Continuity Plan; 業務継続計画)
 大地震等の自然災害、感染症のまん延など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、又は中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のこと



BCPの策定がゴールではありません。
 訓練や研修を繰り返し、常に現場に沿ったものに見直していく必要があります。

訓練は何のために行うのか

訓練は、実施することで、課題を見つけ、施設におけるマニュアルやBCPの**実行性を高め**、感染症への**対応力を向上**させるために行います

【訓練例】

手段	目的	方法	例
机上訓練	<ul style="list-style-type: none"> 状況予測能力の向上 対応力の向上 役割分担、各自の行動の確認 	状況を想定したシナリオを使って、有事の状況のイメージを膨らめ、場面ごとにどのように行動すべきかを確認する。	ワークショップ型訓練 (グループ討議) ロールプレイング型訓練 (役割別、情報付与)
実動訓練	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル通りに実際に動けるかを確認 	実際の施設において、職員の動作や機器操作等を確認する。	安否確認訓練 参集訓練 避難誘導訓練 アクションカードを使用した訓練
集合研修 (オンライン含む)	<ul style="list-style-type: none"> 知識のアップデート、習得 他施設事例から自施設対応に活かす 	講師がテーマ別に解説し、聴講する。	施設内研修 外部団体研修やセミナー等への派遣

本訓練ツールのメリット

(1) 誰もが有事をイメージできるようになります

『もしも』のことをイメージしやすくなります。
自施設の強み・弱みを考えるきっかけになります。

(2) 訓練にかかる時間は施設で調整できます

一連の流れを通して訓練することはもちろんですが、
時間がない時は1場面だけピックアップして訓練することも可能です。

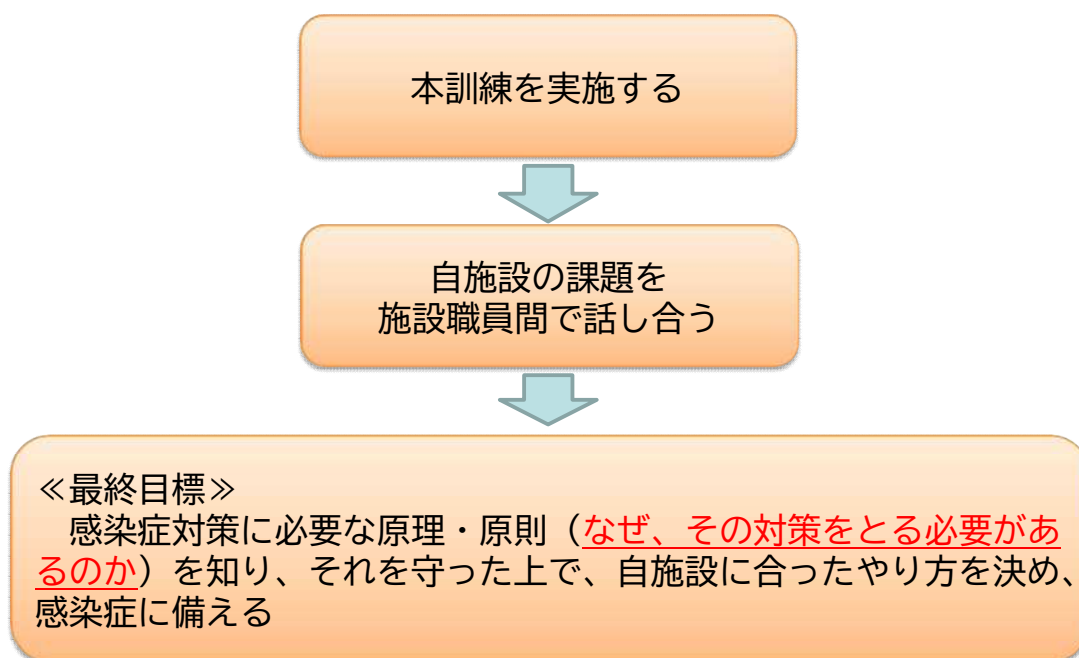
(3) 自施設の図面を使えば、実際に近い形で訓練ができます

自施設図面を用意してあれば、ゾーニング等をシミュレーションできます。
有事の時に慌てずに済みます。

本訓練ツールの使い方

想定 感染症	新型コロナウイルス感染症
訓練 実施人数	1人でも実施可能 ※グループミーティングができるくらい的人数（5～6人）で 実施する方が様々な意見が出て効果的です。
方法 1問あたりの 目安時間	<pre>graph LR; A[想定質問を読む (2分)] --> B[【個人作業】 自分の考えを書く (5分)]; B --> C[【グループ】 個々の考えを聞き、 検討する (10分)]; C --> D[解説を読む (3分)]; D --> E[自施設の課題を 考える]</pre>

本訓練の最終目標



本訓練ツールの使う上での お願い

- この訓練ツールは『一つの正解』を導き出すものではありません。職員の皆さんが最終目標を話し合うために使うための材料です。
- この訓練ツールでは、場面ごとに解説をつけていますが、この解説どおりにすべて行うことが正解というわけではなく、考え方・やり方の一例を示したものになります。
- 解説のやり方と自施設が行っている感染対策が異なる場合には、自施設で行っている対策が原理・原則に合っているかを見直してみましょう。
- 現場職員だけで決めず、施設管理者等も交え、『感染症を拡大させないために施設として何を優先すべきか』を話し合い、今後の施設内対策を考えてみてください。
- 意見を書き出す欄が狭い場合には、別紙を御使用ください。